

平成23年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473400453	事業の開始年月日	平成16年7月1日
		指定年月日	平成22年7月1日
法人名	株式会社アルテディア		
事業所名	グループホーム笑楽庵		
所在地	( 246-0025 ) 神奈川県横浜市瀬谷区阿久和西2 - 39 - 10		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成24年1月16日	評価結果 市町村受理日	平成24年6月6日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の個々の能力に合った生活が送れるように出来ることをして頂きやりがいを見つけられる環境作りに努めています。 自治会の行事参加や近隣の方、保育園等の交流を大切にして楽しんで頂いています。 利用者の発見や刺激の為、外出レクやホーム内のレクを様々なやり方で工夫して実施しています。
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月13日	評価機関 評価決定日	平成24年4月18日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所概要】</b> この事業所は相鉄線三ツ境駅からバスで10分、バス停から1分ほどの静かな住宅地にある。利用者の希望を尊重し、利用者の出来る事を大切にしている。出来ないことは職員が支援し、見守っている。外出支援も積極的に行なっている。ケアを通して職員も利用者も楽しむ事をコンセプトとしている。 <b>【職員の自主的な活動】</b> 管理者は、職員の意見や提案を基本的に尊重し、実現に向けて精査している。「運営」「レクレーション」「防災」「リスク・広報」「記録」委員会があり、全職員は、いずれかの委員会に所属して職員が主体になって活動している。 <b>【地域との交流】</b> 原中南自治会に加入し、行事(体育祭など)に参加している。毎月の定例会には職員が出席している。地域の夏祭り、敬老寄席などにも参加し、事業所の夏祭りには地域の方が参加している。事業所の防災訓練に地域の方が参加、協力してくれた。管理者は地域にむけて認知症の理解を深めるための活動している。そのほか、近くの保育園児が定期的に訪ねてくれるなど地域交流は豊かである。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム笑楽庵
ユニット名	2F

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員共に理念に基づき、考え、行動を行い、また定期的に、確認を行い、互いに精査している。	理念を玄関に掲げ、会議や日常のケアの中で職員は理念について話し合っている。「一人で買い物や散歩に行きたい」など、利用者の思いを叶えるために職員は陰で見守り、実現できるように心を砕いている。「笑顔のたえない楽しい家」を目指している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設で行う、防災訓練、イベント等に積極的に声かけを行い、参加を求めている。また、自治会等に委員会を設置し積極的に参加している。地域のイベント等においても声かけを頂き参加している。	原中南自治会に加入し、行事（体育祭など）に参加したり、毎月の定例会には職員が出席している。地域の夏祭り、敬老寄席などに参加し、事業所の夏祭りには地域の方に参加してもらっている。管理者は地域にむけて認知症の理解について活動している。近くの保育園児が定期的に訪ねてくれ交流をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトに登録を行い、講演依頼時は参加している。またイベント等に参加された地域の方に、話・説明し実際に関わって頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加された方の意見を参考にしたり、協力をしていただいたりし災害時の意見交換等を行っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、直近は24年1月に開催されている。参加者は利用者、自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員などで家族の参加がなかった。事業所は活動報告などを行い、参加者から意見や助言をもらっている。	家族にも運営推進会議に参加してもらえるような工夫を期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護者が多い為、常に連絡を行い、相談、お願をしている。また、利用者様に会いに来ていただき、利用者様の話を聞いて頂いている。	瀬谷区高齢支援課と事業所の状況報告やキャラバンメイト活動を通じて連携している。区主催の研修会には担当職員の参加があり、事業所からの相談事項に応じてもらえる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、窓の施錠については夜間のみ行っているが、常時解錠している。身体拘束については、行っておらず、定期的に勉強会を行い話し合い、確認を行っている。	事業所の方針は、身体拘束をしないこと、命にかかわる場合は本人と家族に同意を得て記録に残し対応することである。職員は身体拘束について研修を受けている。日中は、玄関、ユニット入口の鍵は開いている。見守りは地域と連携している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行っている。職員同士常日頃から話し合い、確認の癖付けをおこなっている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行っている。成年後見制度については、対象利用者様がいらっしゃる為検討を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、家庭訪問を行い、十分話をお聞きしたり、施設全般の説明を行っている。契約締結の際には、契約書に基づき説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当を設け対応を行っている。またご家族様に近況報告として手紙を送付している。些細なことでも、ご家族様に連絡、ご相談を行っており、一緒に考えている。	家族の意見は訪問時や電話で聞いている。年一回家族会を開催しており、今年は3月の予定になっている。家族から薬についての意見があり、医師に相談して話し合い家族の要望に応えた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人考課を行う際、職員個人個人と面談を行い話を聞いている。また、各委員を設け各職員に担当して頂き、意見交換・話し合いを設けている。	フロア会議などで職員の意見を聞いている。職員の意見は、危険が伴わなければ基本的に管理者は「NO」と言わないで実現に向けて精査している。運営、レクレーション、防災、リスク・広報、記録委員会があり、全職員は、いずれかの委員会に所属し、主体となって活動して、職員のやりがいにつながられるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者主任会議を定期的に行い、話し合い、意見交換を行い、定期的に見直し、改善を図っている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	種々の施設内研修・勉強会を定期的に行っている。また外部研修についても、公示し希望者には積極的に受けて頂いており、管理者サイドからも声かけを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内ではあるが定期的に管理者会議を行い各事業体と情報交換・交流を図る機会を得ている、また、法人本部で合同研修も行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅訪問の際、明るい笑顔で挨拶、お名前を呼び、本人の不安や要望等を伺い、表情や声のトーンに配慮しながら要望に沿った支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問の際、笑顔で話を伺いながら、抱えている不安や要望等が出せる環境を提供し、一緒に取り組む姿勢で支援を行っている。契約時、要望等の確認を行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅訪問の際、本人と家族に個々と全体に分けた形で話を聞き、現状必要としている事の見極めを行っている。本人や家族からの質問等に対しての助言を行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重の上、危険が及ばぬように配慮しながら自由な行動が出来る環境を提供し、行っている。本人の経験を活かせる環境を作り、共に学べる姿勢で支援を行っている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時に、本人の現在の生活状態等を報告し、随時では電話対応に必要な相談や報告等を行っている。毎月手紙で近況報告をし、本人とは時に情報の提供や共有を行っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人に関わりのある友人や家族等や近所の挨拶つき合いを継続出来るように、職員が補佐し、支援を行っている(定期的な散歩、訪問、電話、外出)。	友人が訪ねてきた際は、お茶を出し居室で過ごしてもらっている。利用者の訴えを聞いて、家族に伝えたり、電話の取り次ぎ、手紙の代筆などを行っている。郷土料理を楽しみ、故郷を感じてもらったり、昔住んでいた場所に行ったこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者のADLを把握し、現状に合った個別又は全体の関わりの場の提供し一緒に居る環境を増やし支援を行っている（定期的レクリエーションや共同生活、憩いの場）。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡・相談を行い、必要に応じての支援を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人と話をしながら、不安や不満を聞き、意向を取り入れ環境作りを行っているまた、変化に応じて検討会も行っている。	利用者の思いや意向は、日常の会話やケアの際に、話を聞いて把握している。利用者が直接事務所に来て話してくれることもある。把握が難しい方は家族から聞いたり、会話の中から判断している。把握した情報は職員間で共有している。「車で道志村に行き釣りがしたい」という希望を叶えた。また、マージャンの要望があり、現在企画中である。職員も利用者と一緒に楽しむことがコンセプトになっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族から情報を集約することで把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスで、現在の状態によるサービス変更の検討、毎朝のバイタル測定での健康チェック等、普段の接する会話の中で現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的な担当者会議を行い現状の検討を行い、ケアプランに反映させている。</p>	<p>介護計画は利用者、家族の要望、医師の意見を反映させ、サービス担当者会議（全職員参加）で情報を共有し作成している。定期的な見直しは3ヶ月に1回である。モニタリングは毎日行い状況の変化により計画の見直しをしている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録、申し送り、ミニカンファレンス等で情報の共有を図り、気付きを持ってプランへの反映に努めている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご家族の依頼により外部との連絡調整を行い、外出、外泊、物品購入等柔軟な対応を行っている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自治会、地域イベント等への参加を行い、出来ることは本人たちで、出来ないことへの支援を職員が行うことで地域での活動を行っている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に医療の自由を話したうえで、かかりつけ医との信頼を結び連携した医療の提供を行っている、往診医の指示で必要に応じた外部受診を行っている。</p>	<p>本人のかかりつけ医を利用する方は5名で、家族が対応している。認知症専門医を受診している方もいる。協力医の受診は2週間に1回であるが、医師の厚意で24時間オンコールである。歯科医は必要時に往診が受けられる。医師の指示で訪問マッサージ師の施術を受けている方がいる。</p>	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常時、往診看護師と連絡を取れる体制となっている、状況をこちらが伝達して、指示・実行を行って頂いている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>生活状況の情報交換を行い（家族許可の下）本人が不自由しないように努めている、また、定期的に来院し関係者より情報を得よう努めている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>往診Dr・家族・事業所と協議する場を設け、看取りへの方針を説明、共有している、また意向を汲み出来る限りの支援を行っている。</p>	<p>医療的な対応は出来ないが、看取りまで行うことが事業所の方針になっている。入居時に事業所の方針を家族に説明して家族に意向を確認している。重度化された場合は本人、家族、医師、職員と話し合い、意向を確認して看取りを行う。</p>	<p>看取りの方針を家族に説明していますが、今後に備え、具体的な看取りに付いての指針を整備されることが望まれます。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>訓練を年2回行っている、また、地域の訓練に参加している、AEDを所有している為、定期的な訓練も行っている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>総合訓練を年2回行っている、職員は全員参加を義務付けている、また、地域との関係者と合同で行っている。</p>	<p>地震、夜間を想定した防災訓練を2回実施した。参加者は職員、利用者ともに全員、近隣の方4名、消防署員である。自治会の防災訓練に参加している。AEDの使用や災害時は事業所への避難が可能であることを自治会に伝えている。マジックライス134個、水78本、缶詰300個以上などを事業所内外の倉庫に分散して備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方への配慮は普段の会話の中から引き出し、一人一人にあった声掛け、対応を行っている、また自己決定の尊重を尊んでもいる。	本人の自己決定を尊重して対応している。居室の入室は本人の了解を得て行っている。マナーなどプライバシー研修を職員全員参加で管理者が行なっている。訪問時、職員の対応は明るく穏やかであった。個人情報を含む書類は鍵をかけて管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話より引き出し、自己決定が出来る環境作りに努めている、本人の判断で起床食事、入浴が出来るように対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・入浴・外出は本人の希望に沿って提供している、この時間に昼食等の決まりは作っておらず、その方の自己決定に任せ出来るように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には自身で洋服を選んで頂いている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出前をとり好きな物を選び外食を行う、一緒にご飯を作る等、食への自由を実践している、個々の能力に合わせ、食材切り～片づけを行ってもらっている。	職員に栄養の専門家がないこと、献立を作る負担も考慮して献立、食材は宅配業者に委託している。宅配を休止して利用者の好きな出前、郷土料理、イベント時の食事をすることもある。誕生日はケーキで祝っている。訪問時は、ネギを切ったり、食器洗いなどを利用者がしていた。職員と利用者は同席して同じものを和やかに食べていた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量・水分量のチェックを行い、健康状態を把握している。栄養バランスについては、専門家による献立表を使用し調理している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食事後に口腔ケアを行っている、自身で出来ない方には必要に応じ、介助の手を加えている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄の記録を作成、検討して個々に合う声掛けと誘導を行っている。</p>	<p>排泄チェック表で排泄パターンを把握している。14名は自立、4名は誘導したり全介助で支援している。一部介助の方以外は定時誘導をなくし、本人の意向、所作などからトイレ誘導を行なうようにした。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>散歩・手伝い・レク等で適度な運動を提供している、水分量・食事量をチェックし排泄困難な場合は往診Drへ相談している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人の入りたい意思を確認してから入浴の準備をしている、時間は決めておらず入りたいときに入って頂いている。</p>	<p>本人の意向に合わせて、できるだけ見守りのみとし、利用者のペースを大事にしている。一人で入浴されない方の入浴時間は11時～17時頃である。入浴をしたがらない方には声かけなどの工夫をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファ・居室等眠い時には好きなだけ寝て頂けるように職員へ指導・徹底して支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬の説明書を挟んでいる、薬の変更時には記録に残して、状態の確認を行っている、服薬は入居者の能力に合わせ、見守り・介助・自立と支援をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	元料理人には食事作り、植栽が好きな方には栽培等入居者ごとに行っている、また男性・女性でも楽しみが違ふ為、釣り・買い物等の支援を行っている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、昔いた所、見学等計画的に実行している、関係各所には事前に連絡し協力を得るように行っている。	天気の良い日は毎日周辺を散歩している。歩行が困難な方は車椅子で出かけている。100円ショップやお菓子を買っている。散歩で富士山を見た際に利用者から「全景が見たい」と要望があり、忍野八海まで行ったケースがある。その他にも、カラオケ、ホテル狩り、花見など積極的に外出している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物で入居者に支払いを行ってもらっている、ご家族より施設管理を希望している方もいる、職員は持つ事での社会性を考え、買い物時の支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が来たらつなぎ、またかかってきた場合には本人へおつなぎしている、手紙を購入されてきた場合、筆記・投函等出来ないことの支援を行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節ごとのディスプレイを作成している、カレンダーを作成して見やすいようにしている、清潔を保ち空調管理等を行っている。	季節感を出すために節分を意識したオブジェ、手作りのカレンダー、習字、折り紙などが飾られている。ソファに腰を掛けテレビがみられるなど温かみのある空間になっている。「トイレ」など利用者に場所を分かりやすく表示している。加湿器を作動させ、空調に配慮していた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテレビ前にソファを置きのおんぶりできる環境を作っている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの空間作りを行う為以前使われていた物の持ち込み、本人の好みの物を使って頂く様に理解を求めている。	各居室にクローゼットが設置されている。利用者は、テレビ、ステレオ、椅子、写真、塗り絵など好きな物を持ち込み、安心して過ごせるようになっている。基本的に居室は本人、家族が管理し、職員はサポートに徹している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室等、建物内部に何があるのか分かるように張り紙を張って自立できるようにしている。		

事業所名	グループホーム笑楽庵
ユニット名	2F

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員共に理念に基づき、考え、行動を行い、また定期的に、確認を行い、互いに精査している		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設で行う、防災訓練、イベント等に積極的に声かけを行い、参加を求めている。また、自治会等に委員会を設置し積極的に参加している。地域のイベント等においても声かけを頂き参加している		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトに登録を行い、講演依頼時は参加している。またイベント等に参加された地域の方に、話・説明し実際に関わって頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加された方の意見を参考にしたり、協力をしていただいたりし災害時の意見交換等を行っている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護者が多い為、常に連絡を行い、相談、お願をしている。また、利用者様に会いに来ていただき、利用者様の話を聞いて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関、窓の施錠については夜間のみ行っているが、常時解錠している。身体拘束については、行ってららず、定期的に勉強会を行い話し合い、確認を行っている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的に勉強会を行っている。職員同士常日頃から話し合い、確認の癖付けをおこなっている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会を行っている。成年後見制度については、対象利用者様がいらっしゃる為検討を行っている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に、家庭訪問を行い、十分話をお聞きしたり、施設全般の説明を行っている。契約締結の際には、契約書に基づき説明を行っている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情担当を設け対応を行っている。またご家族様に近況報告として手紙を送付している。些細なことでも、ご家族様に連絡、ご相談を行っており、一緒に考えている。</p>		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人考課を行う際、職員個人個人と面談を行い話を聞いている。また、各委員を設け各職員に担当して頂き、意見交換・話し合いを設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者主任会議を定期的で開催し、話し合い、意見交換を行い、定期的に見直し、改善を図っている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	種々の施設内研修・勉強会を定期的に行っている。また外部研修についても、公示し希望者には積極的に受けて頂いており、管理者サイドからも声かけを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内ではあるが定期的に管理者会議を行い各事業体と情報交換・交流を図る機会を得ている、また、法人本部で合同研修も行っている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅訪問の際、明るい笑顔で挨拶、お名前を呼び、本人の不安や要望等を伺い、表情や声のトーンに配慮しながら要望に沿った支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問の際、笑顔で話を伺いながら、抱えている不安や要望等が出せる環境を提供し、一緒に取り組む姿勢で支援を行っている。契約時、要望等の確認を行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅訪問の際、本人と家族に個々と全体に分けた形で話を聞き、現状必要としている事の見極めを行っている。本人や家族からの質問等に対するの助言を行っている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重の上、危険が及ばぬように配慮しながら自由な行動が出来る環境を提供し、行っている。本人の経験を活かせる環境を作り、共に学べる姿勢で支援を行っている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時に、本人の現在の生活状態等を報告し、随時では電話対応で必要な相談や報告等を行っている。毎月手紙で近況報告をし、本人とは時に情報の提供や共有を行っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人に関わりのある友人や家族等や近所の挨拶づき合いを継続出来るように、職員が補佐し、支援を行っている。(定期的な散歩、訪問、電話、外出)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者のADLを把握し、現状に合った個別又は全体の関わりの場の提供し一緒に居る環境を増やし支援を行っている（定期的レクリエーションや共同生活、憩いの場）		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡・相談を行い、必要に応じての支援を行っている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人と話をしながら、不安や不満を聞き、意向を取り入れ環境作りを行っているまた、変化に応じて検討会も行っている		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族から情報を集約することで把握に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスで、現在の状態によるサービス変更の検討、毎朝のバイタル測定での健康チェック等、普段の接する会話の中で現状の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	定期的な担当者会議を行い現状の検討を行い、ケアプランに反映させている		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	記録、申し送り、ミニカンファレンス等で情報の共有を図り、気付きを持ってプランへの反映に努めている		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	ご家族の依頼により外部との連絡調整を行い、外出、外泊、物品購入等柔軟な対応を行っている。		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	自治会、地域イベント等への参加を行い、出来ることは本人たちで、出来ないことへの支援を職員が行うことで地域での活動を行っている		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	入居時に医療の自由を話したうえで、かかりつけ医との信頼を結び連携した医療の提供を行っている、往診医の指示で必要に応じた外部受診を行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、往診看護師と連絡を取れる体制となっている、状況をこちらが伝達して、指示・実行を行って頂いている		
32		<b>入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	生活状況の情報交換を行い（家族許可の下）本人が不自由しないように努めている、また、定期的に来院し関係者より情報を得よう努めている		
33	12	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診Dr・家族・事業所と協議する場を設け、看取りへの方針を説明、共有している、また意向を汲み出来る限りの支援を行っている		
34		<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を年2回行っている、また、地域の訓練に参加している、AEDを所有している為、定期的な訓練も行っている		
35	13	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練を年2回行っている、職員は全員参加を義務付けている、また、地域関係者と合同で行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方への配慮は普段の会話の中から引き出し、一人一人にあった声掛け、対応を行っている、また自己決定の尊重を尊んでもいる		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話より引き出し、自己決定が出来る環境作りに努めている、本人の判断で起床食事、入浴が出来るように対応している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・入浴・外出は本人の希望に沿って提供している、この時間に昼食等の決まりは作っておらず、その方の自己決定に任せ出来るように支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には自身で洋服を選んで頂いている		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出前をとり好きな物を選び外食を行う、一緒にご飯を作る等、食への自由を実践している、個々の能力に合わせ、食材切り～片づけを行ってもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量・水分量のチェックを行い、健康状態を把握している、禁食等による調理時の配慮として</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食事後に口腔ケアを行っている、自身で出来ない方には必要に応じ、介助の手を加えている</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄の記録を作成、検討して個々に合う声掛けと誘導を行っている</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>散歩・手伝い・レク等で適度な運動を提供している、水分量・食事量をチェックし排泄困難な場合は往診Drへ相談している</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人の入りたい意思を確認してから入浴の準備をしている、時間は決めておらず入りたいときに入って頂いている、</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファ・居室等眠い時には好きなだけ寝て頂けるように職員へ指導・徹底して支援を行っている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬の説明書を挟んでいる、薬の変更時には記録に残して、状態の確認を行っている、服薬は入居者の能力に合わせ、見守り・介助・自立と支援をしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	元料理人には食事作り、植栽が好きな方には栽培等入居者ごとに行っている、また男性・女性でも楽しみが違う為、釣り・買い物等の支援を行っている		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、昔いた所、見学等計画的に実行している、関係各所には事前に連絡し協力を得るように行っている		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物で入居者に支払いを行ってもらっている、ご家族より施設管理を希望している方もいる、職員は持つ事での社会性を考え、買い物時の支援も行っている		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が来たらつなぎ、またかかってきた場合には本人へおつなぎしている、手紙を購入されてきた場合、筆記・投函等出来ないことの支援を行っている		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節ごとのディスプレイを作成している、カレンダーを作成して見やすいようにしている、清潔を保ち空調管理等を行っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテレビ前にソファを置きのんびりできる環境を作っている		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの空間作りを行う為以前使われていた物の持ち込み、本人の好みの物を使って頂く様に理解を求めている		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室等、建物内部に何があるのか分かるように張り紙を張って自立できるようにしている		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム笑楽庵

作成日 平成24年 5月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	家族にも運営推進会議に参加してもらえよう工夫を期待します。	年6回の運営推進会議への参加。	運営推進会議の案内状を出す。 家族代表を選出する。 運営推進会議の取り組みを説明し理解して頂く。	1年間
2	12	看取り方針を家族に説明していますが、今後に備え、具体的な看取りに付いての指針を整備されることが望まれます。	看取りの指針を整備する	すでにある法人の看取り指針を笑楽庵用に検討修正を行う。 同時にスタッフへの伝達及び看取りについての不安解消、勉強会を行う。	1年間
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。